

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503130		
法人名	(株)アサヒライフコーポレーション		
事業所名	グループホーム憩		
所在地	福山市山手町1385-1		
自己評価作成日	令和2年2月16日	評価結果市町村受理日	令和2年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	令和2年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旧山陽道に面し周囲には田園が広がり、穏やかな風景と自然に恵まれた環境の中に「グループホーム憩」があります。近隣には、保育所や小、中学校、公民館などがあり、地域、町内行事を通じて地域の人々との交流を図り、その関りを大切に育んでいます。職員は「心のつながり」を大切にしながら、入居者様がその人らしい笑顔と尊厳に満ちた日々を営んで頂けるよう、一人ひとりに応じた医療体制を整え、憩での生活が安心して穏やかなものになるよう努めています。同じ敷地内にある小規模多機能ホーム風花の皆さんと共に、地域の方たちの交流の場、情報交換や発信の場になれるよう頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周りには田畑が点在し、居室からは田畑に来る小鳥を見ることが出来る。近くにはスーパー等があり、利用者も歩いて買い物に行くことができる。優れている点として、①主体性が尊重され、職員はゆとりをもって笑顔でケアに当たっていること②地域とのつながりを大切に、地域の交流の場となるよう努めていることがある。工夫点は、①利用者の思いを汲み取るために、受容と肯定的な言葉かけ及びスキンシップに努めていること②家族の経済的な負担を軽減する努力をしていること③利用者の安全を確保するための手すりやカバー等を状況に合わせて手作りしていることが挙げられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念 3471503130					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をサービスの基本とし、理念を目標にケアの実践が出来るよう、スタッフルームの職員がいつも見える場所に掲示し、より良いケアの実践に取り組んでいる、	スタッフルームに理念を掲示している。利用者を受容し、常に肯定的な言葉をかけ、スキップをすることで理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、地域の活動や行事には積極的に参加している。職員は近所の方たちと顔なじみになっており、親しい関係を築いている。	町内会に加わり、職員と技能実習生が溝掃除に参加している。隣接する小規模多機能ホームのサロンにも参加し、地域と交流している。また、周囲を散歩する時に言葉を交わしたり、中学校の吹奏楽部の慰問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月毎の開催する運営推進会議において、入居者様の状況や施設の運営状況を報告するとともに勉強会や意見交換、情報交換を行っている。年に1~2回は地域の方を招き見学会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	問題や課題を含めて運営状況の報告を行い出席者の立場や業務を踏まえて『皆で支えあう』施設・地域づくりを目指している。	町内会長・福祉会・福祉を高める会・民生委員・包括職員等が参加し、年に6回開催している。出された意見は、地域と協力して事業所前の道路に停止線を設けること等に活かしている。	充実した協議内容を記録に残すことで、地域との相互理解やケアが更に深化することが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福山市の生活福祉課・介護保険課・障がい福祉課・保健予防課との連携により生活保護受給者を含む入居者さまに必要な支援を円滑に行えるよう努めている。	管理者が窓口となり、必要に応じて市役所の関係部署と細やかに連携している。研修会等にも参加し交流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の意思を尊重し、尊厳を守ることがケアの基本であり「声掛け一つでも身体拘束になりうる」ことを理解し業務にあたるよう心掛けている。職員全員に自己評価、アンケートを実施。	利用者一人ひとりに応じたケア、とりわけ言葉かけの内容やタイミング・音量等に配慮し、拘束の未然防止に努めている。職員の自己評価とアンケートを実施し、振り返りも行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待についての意識調査、アンケートを実施。それを踏まえて職員一人ひとりと話し合い、意識向上を図り偽薬隊防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の利用者に即した対応を円滑に進めるために、他の事業所・医療機関・家族と連携を図っている。後見人制度、自立支援、社会福祉協議会などを活用するとともに職員にも説明し理解を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前後に説明を行い、問題点があれば総きゅうに対応、解決策を検討し、安心して入居していただけるよう努めている。解約の際も、退去後の不安や疑問、問題を解消するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や家族からの意見は、申し送り、記録により職員、管理者が共有し早急に対応している。必要に応じ家族・入居者を交えて話し合い入居者・家族にとってより良い施設になるよう努めている。	家族は面会時等に、利用者はケアの中で思いや意向を聴いている。出された意見は、リビングでの座席の変更や家族の費用負担の軽減等に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・副管理者は個別に、日々の申し送り、ミーティングなど様々な場面で意見や提案を受けており、必要に応じて本社での全体会議に取り上げ反映させている。	毎日の申し送りや月に一度のミーティング等で職員の意見を聴いている。出された意見は、空気清浄器の設置や利用者提供する食事の形態の変更等に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は役員・施設長・管理者・主任で構成される定例会議を毎月開催し各事業所の運営に関わる問題を取り上げ話しあい、各管理者主任を対象とした勉強会を企画し、職場の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加の奨励と共に、各事業所間での合同勉強会を企画している。個別には管理者・副監理者・主任が指導に当たっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所間交流会や勉強会・イベントへの参加や招待をしながら交流を深めている。利用者情報の共有にも繋がっており、地域事業所全体でのサービス向上にも活かされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・関係者から情報収集を行い、職員が共有し円滑な入居に備えている。入居が決定すると訪問・招待を重ね、なじみの関係づくりに入り安心して新生活に溶け込めるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人に対する家族の思いや要望・施設に対する」要望や期待・不安などを聞いたうえで、施設・医療機関・家族の三者で入居者様を支えてゆく、という目標を共有しながら信頼できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・家族の状況をよく理解した上で、入居後の生活について医療機関や地域資源を含めた最善のサービスの提供が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の嗜好や能力にあった役割作業…洗濯物干し・たたみ・食器洗い・拭き・買い物などの参加しやすい雰囲気づくりをしている。その都度感謝の気持ちを伝え、支えあって暮らしている…関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時や担当職員による毎月の手紙で入居者様の生活状況を報告している、その中で外出やイベントへの参加を呼び掛けたり家族に意見を求め、相談や話し合いを持ち、家族と職員が一緒に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人・家族から話を聞き、家族・関係者の協力を仰ぎながら、馴染みの人場所との関係の維持に努めている。また、気軽に立ち寄れる雰囲気作りを心掛けている。	ほぼ毎日、面会者があり、関係が継続できるような言葉かけをしている。家族や親戚と墓参りに行ったり、外食をしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が寄り添い、また程よい距離を保つことにより、入居者様同士の程よい関係を保てるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ家族やご本人とへの支援を継続している。施設の性質上、退去後の入院先で亡くられるケースが多く、最後のお別れ・お見送りまでは、お付き合いをさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや要望を汲み取り、家族とも相談をしている。難聴や発語の難しい方にも言語、非言語を織り交ぜながら本人の気持ちを汲み取れるよう心掛けている。	常に肯定的な言葉かけとスキンシップに心がけ、思いや意向を把握して帰宅することなどに活かしている。困難な場合は、文字盤の使用や家族等との連携を基に、本人本位となるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後に可能な限り、本人・家族・関係者から情報収集をしている。本人や家族から思い出話を伺うことで、ご本人のニーズを把握に繋げ、本人の思いの沿った支援に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること・出来ないこと・したいこと・したくないこと・好きなこと・嫌なことなどを把握し「今」の表情や体動、バイタルサインなどを観察することで、ニーズに応じたケアが出来、思いに添った支援に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・医療機関の意向を踏まえて作成したサービス計画書をもとに、家族・介護職員・看護職員などで検討を重ね課題や問題の解決を図りケアの質の向上に取り組んでいる。ご本人の変化に応じて計画は練り直される。	担当者が作成した案を基にケアマネジャーと話し合った後、アセスメントし職員間で共有した計画を家族に提案している。モニタリングは3ヶ月、見直しは6ヶ月としているが柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様ごとに個別の介護日誌・健康管理日誌を細かく記録している。それを踏まえて日々の申し送り・スタッフミーティングなどで検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの「思い」に寄り添った支援が出来るよう柔軟な気持ちと姿勢で対応できるよう職員も一人一人が意見やアイデアを持ち寄り日々奮闘している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や近隣の事業所とのつながりで培った「つながり」の中で、盆踊り跳ね踊りなどのイベント・移動図書での雑誌や懐かしい映像など入居者様が安心して楽しめるよう幅広い支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・家族の希望を配慮したうえで適切な医療を安心して受けられるよう提案・支援している。かかりつけ医・主治医との連携を保ちご本人・家族の要望に応じ医療機関の紹介、連携も行っている。	利用開始時に利用者・家族と話し合って納得したかかりつけ医となっている。往診は月に2回としているが、毎日、看護師や医師と連携している。夜間や緊急時にはマニュアルに即して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護職員・医療機関の担当看護師は常に連絡を密にし必要に応じ迅速に受診・往診・入院・退院ができる体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に施設側が家族と医療機関とのパイプ役となり必要に応じ入・退院時には施設職員が立ち会い家族・病院のサポートををしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に基本的な方針やリスクを想定した対応などの説明を行い、同意を得てからサービスの提供開始となる。入居者様の状況変化に応じその都度、関係職員の意見を検討し、施設として出来ること・出来ないことを見極め、ご本人・家族に説明し理解していただけるよう努めている。	利用開始時に、事業所として出来ること・出来ないことを丁寧に説明している。重度化した場合、家族・医師・事業所で話し合ってチームで支えるよう努めている。	看取りを希望している家族もあります。家族の支援及び職員が安心して看取りに臨むことが出来るよう、早期に研修を組むことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要な時に直ぐ手に取れるよう、緊急時の対応マニュアルを各部署に配置。個人にも配布。年1～2回の救急救命訓練やミーティング、日々の業務の中で管理職・看護職員の指導の下、実践力を磨いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	福山市の合同防災訓練や町内の防災訓練・勉強会など定期的に継続して参加している。	利用者も学区の防災訓練に参加している。今月と来月に水害と火災を想定した避難訓練を実施する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は「親しみやすい声かけや態度」と「馴れ馴れしい声掛けや態度」の区別を理解し、入居者様の尊厳を大切にプライバシーに配慮した声掛けや対応をするよう心掛けている。	性差や生活経験など、利用者一人ひとりに応じた言葉かけの工夫や移動図書館で本を借りるなど一人ひとりを大切にケアをしている。また、入室時のノックやトイレの介助なども細やかに配慮し、プライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が遠慮や心配をせず、思いや希望、要望を表したり決定をし易い雰囲気づくりを、個々のペースに合わせて働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが、それぞれの思いとそれぞれのペースでゆったりと過ごして頂けるよう、担当職員、介護職員は創意工夫をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人家族の希望に応じ理髪店や美容院などの外出支援を行っている。3ヶ月毎のボランティア・カットは多くの入居者、家族に喜ばれている。化粧・装飾品・衣類なども本人・家族・しょくいんで相談しながら楽しんで頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好・身体状況に合わせ、普通・一口大、刻み・ミキサー・トロミなど安心して楽しく食事をしていただいている。能力に応じお手伝いをお願いしていただいている。	昼と夜は配食とし、一人ひとりに応じた食事形態を提供している。利用者も盆を拭くなど、出来ることをしている。誕生日には個別に洋食を食べに行ったり、月に2~3回ホットケーキなど、おやつ作りを楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師・看護師・家族と相談しながら食事の内容や水分の質と量など無理なく安全に安心して召し上がっていただけるよう工夫している。食器も色や形状など好みや使いやすさ・安全に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	家族に説明し同意を得たうえで歯科医師・歯科衛生士の指導のもと、一人ひとり状態とペースに合わせて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り無理なく安全にトイレでの自然な排泄して頂けるよう、適切な声掛けと誘導を行っている。立位や車いすからの移乗が困難でも可動式の手すりを設置している。居室にはベッド下にポータブルトイレを設置している。	昼間はほとんどの利用者がトイレで排泄している。夜間は一人ひとりに応じて対応している。立位を保つためのリハビリ体操や歩行訓練等により、リハビリパンツから布パンツへの改善例もみられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤などの薬に頼りすぎないように、医師・看護師・職員で話し合い、繊維質の食品や乳製品などの食べ物飲み物に工夫をしている。散歩やリクリエーションなどを取り入れ楽しみながら身体を動かして頂けるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望や体調を尊重しゆっくりと安全に入浴を楽しんで頂けるよう、予定は柔軟に組んでいる。入浴中の事故やトラブルの予防と対応の為に入浴時間帯は職員の3人体制を厳守している。	時間帯にこだわらず週に2～3回、利用者の状況に応じて入浴している。入浴は3人体制とし、立位を保ちにくい利用者も浴槽に入っている。嫌がる人には、肯定的な言葉をかけることで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様それぞれに居心地の良い場所・お気に入りの場所があり、食後は居室やソファでくつろがれる方も多し。職員は転落や転倒のリスク・体調の急変も想定しながら、必要に応じ見守りや声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からの服薬の指示・指示は必ず書面で確認共有・理解に努めている。目的や方法に応じ、保管場所や取扱の取り決めをし、職員同士で声を掛け合い、確認・記録している。些細な変化でも気づいたら記録・報告し、医師・看護師に相談し支持を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前・午後の定時のおやつ以外にも好みや嗜好に応じ雨や菓子果物を用意している。個別の散歩や買い物、風船バレーやカラオケなどレクリエーションも職員が創意工夫し準備している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	駐車場や2Fベランダでの日向ぼっこ、近隣への散歩や買い物・外食・町内行事の参加、家族・親戚との外出など個人差はあるが外出の支援は積極的に行っている。花見やバラ祭り・跳ね踊りはとても喜ばれている。	時々の良い時には、東側の駐車場や2階のベランダで日光浴をしたり、近くのスーパーや薬局に買い物に行ったりもしている。また、地域の家庭に芋ほりに行ったり、サービスエリアにバラを見に行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関心のない方、お金のことで不安になられる方も居られるため対応には配慮している。可能な方には個別に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り柔軟に対応している。家族や関係先の事情も十分に配慮して、混乱やトラブルのない円滑なやり取りが継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	脱衣場やトイレなど使用頻度の多い共有空間には見守り・介助の必要上、カーテンやパーテーションを設置しプライバシーの保護に努めている。照明や空調・臭気にも配慮し快適な空間作りに努めている。季節ごとの飾りつけを入居者様と一緒に作り居心地の良い空間作りに努めている。	玄関には管理者が描いた職員の似顔絵が掛けられている。リビングが広く、大き目のソファが置かれ利用者はゆったりと寛いでいる。空気清浄器を設置し、感染症にも配慮している。熱帯魚や利用者が作った塗り絵や鬼の面等が掲示され、季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が一人一人が快適にくつろいで過ごせる居場所、転倒や転落の危険に配慮してソファやテーブルなどを配置し、安全に安心して移動できる空間の確保に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や家族の思い出の品や愛着のあるものを置いている。それにまつわる「思い出」をご本人・家族からお聞きし、職員と一緒にその「思い出」に浸り共感しながら「居心地の良い居室・場所づくり」をしている。	入口付近に洗面台が設置され、利用者の利便性に配慮している。木製の腰板が温かみと柔らかさを醸している。家族や誕生日の写真、敬老会の記念の色紙等が置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙での視覚的な案内・安全マット・足元センサー・手すりやポータブルトイレ、歩行器車いすなど一人ひとりの身体状況に配慮し、適切な見守りと介助をすることで一人ひとりの自立支援に繋げている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		2～3月に予定していた災害(水害)を想定した避難訓練、消防訓練が新型コロナウイルスの影響で実施できていない	早期に ・災害を想定した避難訓練 ・通報、消火、避難訓練を行う	肺炎の収束を待って可能な時に行う	6ヶ月
2	33 (12)	看取りを希望される家族も居られるなか、看取りの研修が十分に出来ていない	職員が研修を受け、全職員が共有し、安全に、安心して看取りに臨むことが出来る施設を目指す	外部研修、内部研修の実施	12ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		3471503130
実施段階		(↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備		①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		②利用者へサービス評価について説明した
	○	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	○	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		⑤その他()
2 自己評価の実施		①自己評価を職員全員が実施した
		②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	○	⑤その他(自己評価結果を全職員が確認、共有している)
3 外部評価(訪問調査当日)	○	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	○	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	○	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開		①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	○	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		⑤その他()
5 サービス評価の活用		①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	○	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	○	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	○	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		⑤その他()